

5部門中4部門を制し

団体優勝

今シーズン 好スタート



▶ 標準障害飛越2位の吉澤主将。団体優勝に貢献した（撮影・荻野）



東都学生馬術大会が4月6日から8日まで、JRA馬事公苑で開かれ、専大は見事団体優勝に輝いた。新人障害飛越、女子障害飛越、セントジョージ賞典馬場馬術、標準障害飛越と5部門中4部門を制し、今シーズンのスタートを華々しく飾った。

個人では吉澤和紘主将

（経営4・西宮香風高）

が標準障害飛越で2位、

柳原大徳（商2・各務原西高）が3位、複合馬場馬術で黒沼尊之（経済2・自修館中等教育学校）が3位に入賞。また、新人障害飛越で高桑恵利香（経営1・砺波高）が優勝、秋山桜子（経済1・横浜旭陵高）が3位、女子障害飛越で秋山が2位、セントジョージ賞典馬場馬術で鶴林舞（商1・市立前橋高）が2位と、1年次生の健闘が目立った。

富沢健悟監督は「部員同士のライバル意識が良い刺激になっている。6月の関東学生馬術競技大会でも勝ちにいくな。十分に狙える戦力だ」と力強く語った。

また、4月6日、同会

場で行われた東都トーナ

メントでは、団体の部で準優勝を果たし、高山健一郎（商4・向陽台高）が優秀選手に選ばれた。（加藤 未希・文3）